

多言語多文化研究に向けた複合型派遣プログラム
派遣先機関等利用マニュアル

2010年 10月 31日

派遣者氏名（専門分野）	福島 邦久（ 西洋史学 ）
-------------	---------------

派遣期間	2010年 9月 1日 ～ 2010年 9月 10日
------	----------------------------

派遣研究機関

国	都市	訪問機関
イギリス	ロンドン	The National Archives (国立公文書館)

利用マニュアル（利用申請に必要な書類、手続き、リサーチ方法を記入）

National Archives の閲覧室を利用する際には、British Library の場合と同様にリーダーズ・パスを取得する必要がある。こちらの場合は訪問前の事前登録は必要ない。しかし、日本での住所を証明する書類が必要であり、ここには日本人の職員がいないためその書類は英語である方が望ましいとされている。英語による住所証明の書類としては、銀行で発行している英語による口座残高証明書などが挙げられるが、口座残高証明書に住所が書かれていない場合もあるので確認する必要がある。リーダーズ・パス取得希望者はこの住所を証明する書類とパスポートを持参して The National Archives 内の登録受付用の部屋に向かい、その中にある端末を使って手続きをしなければならない。端末による手続きが終わったら係員のところに行き、持参した書類とパスポートを見せ、いくつかの質問に答えて許可を得るとリーダーズ・パスを取得することができる。なお、The National Archives は月曜日と日曜日が休館日で、開館時間は火曜日と木曜日が 9 時～19 時、それ以外が 9 時～17 時である。

資料を閲覧するためには、まず閲覧室の外に設置されている端末を使って検索し、請求する必要がある。資料の到着には 1 時間弱かかる。資料検索の際には、所蔵文書の詳細な目録や、文献解題なども利用することができる。資料の閲覧は基本的に閲覧室の中で行うが、検索した際にマイクロフィルム化されていると表示された場合は、閲覧室の外にあるマイクロフィルムリーダーを使って閲覧する。マイクロフィルムは種類別・番号順に整頓されており、すぐに必要なものを見つけることができた。マイクロフィルムリーダーとともにプリンターも設置されており、それを利用すれば有料ではあるがマイクロフィルムの内容を複写することもできる。

マイクロフィルム化されていない資料は閲覧室内で閲覧することができる。閲覧室には鉛筆・ノートパソコン・メモ用の紙・カメラなどの必要最小限のものしか持ち込むことはできず、鞆も持ち込めないため指定の袋を利用する必要がある。また、シャープペンシルやボールペン、消しゴムなども持ち込むことはできない。閲覧室入口で荷物検査を受け、リーダーズ・パスを機械に通すことで閲覧室に入室できる。

請求した資料は、資料を請求した際に予約した座席に対応したボックスで受け取る。資料の複製はできないが、自由に写真を撮ることができる。閲覧室から出る時に資料を自分のボックスに返却するが、資料の閲覧を翌日以降も続けたい場合には、事前に端末を使って手続きすることで、翌日以降にその資料を取って置いてもらうことが可能である。その場合は翌日の朝待ち時間なしですぐに閲覧を開始することができる。閲覧室から出る際には入る時と同様に荷物の検査を受けるが、この閲覧室での荷物検査は British Library における検査よりも厳しい印象を受けたので、注意が必

要である。

